



古江晋也・田口さつき 著

『隣の協同組織金融機関  
—持続可能な地域社会を  
めざして—』

地域経済の低迷や人口減少など地域金融機関を取り巻く経営環境は厳しさを増す中で、一貫して地域密着で事業を展開してきた協同組織金融機関のビジネスモデルやガバナンスのあり方が注目されている。

本書は、こうした社会情勢の下で、協同組織金融機関として、信用金庫、信用組合、労働金庫、農業協同組合、漁業協同組合の5業態について、これまでに著者が発表している論文やレポートを基にした分析とともに、大手メディアでは取り上げられることが少ない、協同組織金融機関が地域社会を存続させていくために実施している取り組みとして、53の具体的な事例を各章に分けて紹介している。

第1章「協同組織金融機関の業務特性」では、各業態により異なる協同組織金融機関の特徴が述べられており、第2章では、「協同組織金融機関の歴史」が取り上げられ、先祖株組合や報徳社が運営されていた時代から協同組織金融機関がどのように発展してきたのかについて理解を深めることができる。第3章「協同組織金融機関の経営指標の推移」では、2015～2019年度の『全国信用金庫財務諸表分析』、『全国信用組合決算状況』、『全国労働金庫経営分析表』といったデータを用いて、協同組織金融機関の業績の推移や現況を分析している。第4章では、「協同組織金融機関の取引先支援」

として、リーマン・ショック発生時やコロナ禍における地域社会への支援について事例とともに紹介しており、相談内容に対し、根本的な解決を目指すための対話を行う大変さと重要性に気づかされる。第5章「協同組織金融機関の地域支援」では、地域貢献活動の取り組みや東日本大震災への対応に触れている。第6章「ダイバーシティ経営と協同組織金融機関」では、女性活躍、高齢者雇用、障がい者雇用の取り組み等についてまとめている。

著者の言葉にあるように、協同組織金融機関はこれまでと同様に地域社会との対話を大切にしていくことが求められている。時間的または金銭的なコストを要するような、一見すると「非効率」に見える取り組みが非常に重要であり、地域の人々の喜びや悩み、苦しみに耳を傾け続けながら、組合員のニーズを汲み取り、業務効率化を進めながらも、協同組織金融機関の使命を果たしていく必要がある。紹介されている事例を見ると、協同組織金融機関の役職員と組合員の信頼関係が築かれているからこそ実施できている取り組みも多い。

近年の自然災害や社会問題に対する取り組みを含め、永続的に発展する地域社会に密着し支えるための協同組織金融機関の取り組みや組合員への「最後の貸し手」としての役割発揮について網羅的にわかりやすくまとめられており、多くの地域金融機関にとって金融サービス提供のあり方を提示する道しるべとなる有意義な文献といえる。

—金融財政事情研究会 2022年4月

定価1,980円(税込) 229頁—

(一般社団法人 日本共済協会 専務理事

横山真弘・よこやま まさひろ)